

グローバル 眼の

内需型成長は従前からの方針であり、それほど

しながら、対外開放を深めていくと理解されてい

中国「双循環」提唱の真意



内需主導・对外開放を促進

最近の中国メディアに「双循環」という単語が頻繁に登場する。馳染みのない言葉だが、文脈上では国内と国際の二つの柱を相互に促進する経済発展を目指すという意味で、周知のように、米中対立の長期化や新型コロナウイルスの感染拡大でグローバル化が進むにつれて、その座談会で強調され、クローズアップされるようになっていく。

双循環は5月に行われた政治局常務委員会議や全人代で提起されたが、7月下旬に開かれた習近

革新がかないものの、
「国内大循環を主体とする
」といつ表現は国内経
済の力を一層高める決意
の表れだと思われる。と

りわけ、消費を促進する
ために、不動産価格の上
昇を抑制する姿勢を改め
て表明している。また、
新興ハイテク企業向けの

一方、習近平国家主席は「双循環が決して門」を閉ざすわけではなく、「国内・国際市場を利用、持続的発展の実現へ」との意味で、この二つの循環を連携させることで、世界経済の持続的発展をめざすことを示唆している。

現時点では、業界の説明だけでなく、中国企業の海外進出を支える狙いもあると考えられる。

場条件の緩和をは
じめ、株式市場の
強気相場を育成
し、中国企業の発
展をサポートしよ
うとしている。

振り返ってみれば、
1978年に実施した「改
革・開放」は、それま
での社会主義と資本主義と
のイデオロギー論争に終
止符を打ち、実利を重視

改革・開放政策の成功例である深圳。ここでは「時間が生命」が突破口に乘せたわけだ。た。対外的には門戸を広げて外資の誘致に注力し、中国を経済発展の軸道に乗せたわけだ。



伊藤忠総研
産業調査センター
主任研究員

趙 璋 琳

重要な意義を持つが、約14億人がいる巨大なマークетのさらなる開放は実現されるだろうか。この材や技術を有する外国企業が、また、双循環が自指す開放は、従来から重視してきたような、高度な人材育成を実現するためには、依然として課題が多い。しかし、中国は世界最大の市場であり、その開放度合いが世界経済に大きな影響を与えることは間違いない。

また、双循環が目指す
開放は、従来から重視して
きたような、高度な人材や技術を有する外国企
業